

SBIグループのCSR活動

CSRへの取り組み

企業は社会の一構成要素であり、社会があって初めて事業を営むことができます。したがって、企業は社会の維持発展のために貢献していかなければ、ゴーイングコンサーン(永続企業)として存在していくことはできません。だからこそSBIグループは、「企業の社会性」を強く認識し、「強くて尊敬される企業」を目指し、CSR(企業の社会的責任)活動に積極的に取り組んでいます。

SBI子ども希望財団を通じて活動を強化

SBIグループは、直接的な社会貢献として、利益の中から適切な範囲内で児童福祉施設などへの支援を行うことを基本的な考えとしています。2005年から活動を続けているSBI子ども希望財団は、2010年に内閣総理大臣から公益財団法人として認定を受けています。これにより、社会的信用の保持のみならず、税制上「特定公益増進法人」として取り扱われることに伴い、税制面での優遇を享受することになりました。今後も児童虐待防止などの社会貢献事業への取り組みを強化していきます。



● 具体的な取り組み

1. 施設への寄附

被虐待児童入所施設的环境向上・改善のために、2011年3月期は児童養護施設のケア単位の小規模化などに目的を絞り、17施設に対し41百万円の寄附を実施しました。

これにより、2006年3月期以降の寄附実施金額は、累計で717百万円となりました。

2. 職員研修

全国を東日本と西日本に分け、児童養護施設に勤務するケアワーカー各50名を選抜し、虐待を受けた子どもへ治療的養育に必要な知識及び技術の習得を目指したオン・ザ・ジョブ・トレーニングを提供しています。また、今年度から、上記研修修了者向けの上級研修「SBI子ども志塾」を開講し、施設経営マインドも織り込みつつ、知識だけでなく実践力も重視したカリキュラムにて少数の塾的環境による研修を実施しています。2011年3月期は東日本地区3回、西日本地区5回、合計8回の研修を実施しました。

3. 自立支援

施設退所後の児童の自立に向けた支援活動として、3施設2団体への支援など15百万円の寄附を実施しました。

4. 虐待防止啓発活動

虐待防止啓発活動に取り組む団体に対する支援(2団体、17百万円)のほか、SBI子ども希望財団及びSBI大学院大学、横浜市

立大学の共催で、一般市民向けの子どもの虐待防止セミナー(テーマ「気づく・救う・防ぐ～子どもの虐待～2010」)を開催しました。

また、児童虐待防止全国ネットワークが実施する「オレンジリボン・キャンペーン」(児童虐待防止の社会的啓発運動)を後援し、毎年11月の虐待防止強化月間には、北尾CEOをはじめとするSBIグループ役員一同によるオレンジリボンの着用、社内外への普及・啓発活動に取り組んでいます。その結果、2011年3月期のオレンジリボン、バッジなどの販売による寄附総額は535,390円となりました。



モーニングスターによる「SRIインデックス(社会的責任投資株価指数)」の算出・公表

モーニングスターのデータを使ったSRIファンドの純資産残高(公募投信)は、2ファンド合計で約34.7億円(2011年3月末現在)となっています。SRIインデックスの算出・公表を通じて、企業のCSR活動を促進すると同時に、ファンド組成や投資家への情報提供などSRIという資金循環へも貢献していきます。

東日本大震災被災者の方々への支援活動

SBIグループでは、2011年3月11日に発生した東日本大震災の被災地支援のために義援金の拠出及び募集を行ってきました。

2011年5月末時点で、当社グループが皆様より募集した義援金は合計で74,429,783円となりました。また義援金の募集に加えて、SBIグループ各社では一定期間の売上額の全額または一部の寄附などを行い、その金額は2011年5月末現在で合計25,061,127円となっています。当該寄附金と、当社グループが募集した義援金を合わせた総額99,490,910円は、日本赤十字社へ被災者救済のための救援活動及び復興支援活動等資金として寄附させていただきました。

義援金募集・寄附を実施したSBIグループ企業

SBI証券	証券口座からの出金による義援金の募集 FX取引高に応じた義援金の拠出による寄附
SBIリクイディティ・マーケット	FX取引高に応じた義援金の拠出による寄附
住信SBIネット銀行	指定口座への振込による義援金の募集
SBIペリトランス	インターネット決済を利用した義援金の募集
SBIポイントユニオン	SBIポイントを利用した義援金の募集
サーチナ	中国人ユーザーからの義援金の募集 同社からの寄附
シェアリー	義援金クーポンの販売による義援金の募集 特定期間の売上全額寄附